

県南家畜衛生情報

今号の主な内容

高病原性鳥インフルエンザにご注意を！！(中小家畜防疫)

もう一度確認！初乳の与え方（生産衛生）

冬期の豚舎の衛生管理（安全対策）

アカバネ病にご注意を！！(大家畜防疫)

牛白血病について（病性鑑定）



アカバネ病!? 本文 5 ページ

緊急

高病原性鳥インフルエンザにご注意を！！（中小家畜防疫）

(1) 宮崎県で発生した高病原性鳥インフルエンザについて（平成 1 9 年 1 月 1 4 日現在）

平成 1 9 年 1 月 1 3 日に宮崎県宮崎郡清武町、肉用種鶏飼養農場（飼養羽数：約 1 1 , 9 0 0 羽、うち死亡羽数：約 3 , 8 0 0 羽）から 高病原性鳥インフルエンザ H 5 亜型の A 型インフルエンザ が確認されました。

	H19.1.14 までの対応	今後の予定
発生農場の対応 < 防疫措置 >	<u>殺処分終了</u> 1号鶏舎：約 4 , 0 0 0 羽 2号鶏舎：約 1 0 0 羽 3号鶏舎：約 4 , 0 0 0 羽 約 8 , 1 0 0 羽	発生農場全体の死亡鶏・処分鶏の <u>焼却処分</u> 、鶏糞等の消毒の防疫措置を実施。
周辺農場の対応 (1 6 農場) (1 9 . 4 万羽)	移動制限を実施（半径 1 0 k m ） 周辺農場に立入検査を実施。 飼養鶏に異常がないことを確認。	発生農場の防疫措置終了後、 <u>清浄性確認</u> を実施。
疫学関連農場の対応	<u>導入元は 1 ヶ所のみで立入検査</u> を実施。 飼養鶏に異常がないことを確認。 疫学関連農場について調査中。	関連農場が確認され次第、速やかに立入調査等を実施。

(2) 平成 1 8 年 1 1 月 2 3 日、韓国で高病原性鳥インフルエンザが発生しております。

確定日	発生場所	型	発生状況
H18.11.25	全羅北道 益山市 チョルラブド・イクサン	H 5 N 1	肉用種鶏 / 飼養数 13,300 羽 (うち約 6,500 羽死亡)
11.28	全羅北道 益山市 チョルラブド・イクサン (1 例目から 3 km)	H 5 N 1	種鶏農場 / 飼養数 12,000 羽 (うち約 600 羽死亡)
12.11	全羅北道 金堤市 チョルラブド・キムジエ (1 例目から 18 km)	H 5	離れたウズラ農場 / 飼養数 29 万羽
12.21	忠清南道 牙山市 チュンチョンナム・アサン	不明	アヒル農場

また、11月23日、韓国京畿道平沢市(フンギド・ピョンテク)及び陽平郡(ヤルピョングン)におきましては、低病原性鳥インフルエンザ(H9)の発生も報告されております。

平成16年1月に日本において79年ぶりに発生した本病の国内への侵入経路は未解明ですが、韓国から渡り鳥などにより運ばれた可能性が示唆されております。

県内でも渡り鳥が多数飛来しており、本病侵入が予断を許さない時期を迎えております。

当所では管内の養鶏農場及び愛玩鶏(鳥)飼養者へ防疫対策・衛生管理の再徹底を直接配布もしくは飼料販売店にリーフレットを設置するなどにより周知しているところですが、皆様からも鶏飼養者へ本病についての理解と注意をお願いいたします。

詳細な情報は、当所のホームページでも提供しております。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp2514/hpai.html>

～愛玩鶏を飼育している皆様へ～

高病原性鳥インフルエンザにご注意ください！

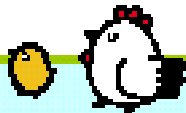
県内に渡り鳥が飛来する季節を迎えております。原因となるウイルスは、感染した野鳥や渡り鳥の糞などによって広がります。

また、周囲の隣外国(中国、インドネシア、タイ等)では、本病のまん延が報告されています。本県での発生を防ぐため、本病の発生予防対策を実施しましょう！

1 発生予防対策を実施しましょう！

対策のポイント

- ・ 野鳥等が、飼育舎や給水圏に侵入しないよう防鳥ネットで囲いましょう。
- ・ 池や沼の水を与えないようにしましょう。
- ・ 渡り鳥が飛来する場所に近づかないようにしましょう。
- ・ 日頃から、飼っている鳥の健康状態を観察しましょう。
- ・ 飼育舎の消毒を定期的に行いましょう。
(消毒の方法について)
床をきれいに清掃した後、水道水、塩素消毒液、漂白剤(園鳥で販売)を500～2,000倍に薄め、ジョウロなどで床や壁に散布します。床裏が土の場合は、消石灰を散布してください。
- ・ 関係者以外の人のみだりに飼育舎に入内しないようにしましょう。



対策のポイント

- ・ 防鳥ネットの設置
- ・ 池や沼の水を与えない
- ・ 渡り鳥が飛来する場所に近づかない
- ・ 飼養鶏(鳥)の健康管理
- ・ 鶏舎、器具などの消毒等

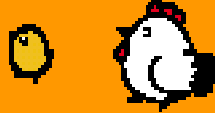
2 万一、飼っている鳥に異常な症状がみられたら？

本病の症状

- ①急に次々死亡する
 - ②くしゃみ、ゼーゼーした呼吸音、下痢
 - ③顔、とさか・肉冠などが腫れる
 - ④白痢、チアノーゼ(青黒顔)
 - ⑤産卵の低下・停止
 - ⑥飼料・飲水摂取量の低下
- 鳥の種類・ウイルス性の違いにより、症状は異なります。

早急に連絡を！

上記の症状が、通常より多く発見された場合は、早急に、**当所**に連絡願います。



本病の症状

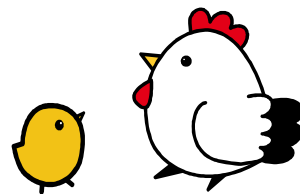
- ・ 飼養鶏(鳥)の突然の死亡
 - ・ 呼吸器症状
 - ・ 顔面、肉冠、脚部の浮腫・チアノーゼ
- など鳥の種類、ウイルス株の違いにより様々な症状を呈します。

3 鳥インフルエンザが疑われた場合は、落ち着いて対応してください。

- ・ 異常な病が確認されても、人に感染する可能性は低いので落ち着いて連絡してください。
- ・ 鳥の糞には直接さわらないようにし、密着した後は、手洗い、うがいをしましょう。
- ・ 鶏肉・鶏卵をたべることによって人に感染した例は、世界的にも報告がありません。
- ・ ウイルスは加熱(75℃ 1分)することで死滅します。

～本所に届く、問い合わせは～

岩手県農業家畜保健衛生所
電話：0197(23)3531 FAX:0197(23)3593



もう一度確認！初乳の与え方（生産衛生）

1 なぜ初乳が大事なのか

- ・ 牛は病気から自分を守る『免疫抗体』を初乳からもらいます。
- ・ 子牛に下痢・呼吸器の病気を出さないためにもしっかりと子牛に免疫をつけましょう。

初乳の種類

	内 容	栄養分	免疫gIb
初乳	母牛の1回目搾乳された生初乳		
凍結初乳	生初乳を冷凍庫で完全に凍結させたもの 牛白血病ウイルスを不活化		
発酵初乳	生初乳を常温で発酵(ヨーグルト化)したもの		無効
加温初乳	加温装置で60 30分加温 ヨーネ菌・糞球菌・牛白血病ウイルスを不活化		
粉末初乳	市販されている初乳製剤		
代用乳	子牛用の代用乳		無効

2 初乳給与上の注意

(1) 迅速が大事 <なぜ早く給与すべきなのか？>

- ・ 生後12時間を過ぎると移行抗体は殆ど吸収されなくなります。
- ・ 1回目は**6時間以内**に給与しましょう。

<初乳加温装置>



でもここで注意！！

- ・ 生まれたばかりの子牛の胃に羊水が溜まっていることがあります。
- ・ **ほ乳欲を示さない、お腹が膨れている、子牛が弱っている等**
- ・ こんな時はせっかくの初乳が薄まり吸収できません

しっかり ↓ ほ乳欲の確認を...

- ・ 子牛の体をよく拭いて乾かし、マッサージをする。少量の初乳を口に入れる。
- ・ ほ乳欲を示したら飲めるだけ、飲みたいだけ与える。

(2) 量も大事

- ・ 子牛の初乳は **生時体重の10%** を目標にします。
- ・ 1日に給与する量を2回に分けて、なるべく早く飲みきるように工夫しましょう。
(例えば... 50kgの子牛には5L、3L + 2Lをなるべく早く...)

(3) 搾乳回数も大事

- ・ 2回目搾乳の初乳は1回目に比べ、免疫量が大きく減少します。
- ・ 品質が良ければ1回目に8Lまで搾乳し、2回目の給与に使いましょう。
- ・ 余れば凍結保存するのもいいでしょう。保存の際には何度目の搾乳が記載をしましょう。

<初乳品質の簡易検査に糖度計>

牧草や果樹用の糖度計で簡易に初乳品質が測れます。



糖度計
アタゴN-1



異常乳、血乳・乳房炎乳は禁止
目盛り
20以上で
IgG濃度が
50ml/mg
以上となる。

初産牛や漏乳は
ぜひ測定を！

(4) 器具の衛生管理

- ・ たまに使う初乳用バケツ・ほ乳瓶・ほ乳バケツも、搾乳機と同様に洗浄が必要です。
- ・ 温水+アルカリ+酸洗浄後、消毒して衛生的に器具器材を使いましょう。

冬期の豚舎の衛生管理（安全対策）

気温が下がり空気が乾燥してくるこの季節、呼吸器病が発生しやすくなります。

適切な管理で病気を予防しましょう。

1 寒冷・ガス

- ・ すきま風は豚にとってストレスになるとともに、疾病発生の要因にもなります。
- ・ また、有害ガス（アンモニア）対策として換気は重要ですが、冬期間は豚舎内の気温のコントロールに留意しましょう。

2 湿度

- ・ 冬期は空気の乾燥により、豚舎内はほこりが増加しやすくなります。また、乾燥により呼吸器粘膜の抵抗力が低下し病原体が侵入しやすくなります。散水や細霧などで豚舎内の湿度を保ちましょう。

3 感染症対策

- ・ 呼吸器病は、複数の病原体の感染によるものがしばしばみられます。
- ・ ある病原体の感染で抵抗力が下がり、別の病原体に感染しやすくなります。

次の3つのポイントに注意し、感染症を予防しましょう。

(1) 病原体の侵入防止

- ・ 豚舎内外の清掃・消毒を徹底しましょう。
- ・ 異常が認められる豚は、隔離し、検査や治療等を行いましょう。
- ・ 早期の発見、治療が被害を最小限にします。

(2) 侵入経路の遮断

- ・ 農場へ出入りする車、資材などは消毒してから農場へ入れましょう。
- ・ 豚舎へ出入りする際は、清潔な専用の着衣、長靴に交換しましょう。
- ・ 飼料や水は病原体に汚染されないように管理しましょう。
- ・ 豚舎内に野生動物などが侵入しないよう管理しましょう

(3) 抵抗力の強化

- ・ 温度、湿度、飼育密度、換気を上手にコントロールし、適切な環境を作りましょう。
- ・ 必要な場合はワクチンによる予防を行いましょう。

アカバネ病にご注意を！！(大家畜防疫)

平成 18 年 9 月上旬から九州地方において、中枢神経症状（特に後肢麻痺）を呈する子牛および育成牛が継続的に確認されています。これらの脳からアカバネウイルスが分離されたことから、同ウイルスの**生後感染**が疑われ、現在、調査中です。

通常、アカバネウイルスは**吸血昆虫(主にヌカカ)**により媒介され、**妊娠牛**に感染することで、**秋から春にかけて異常産**（早流死産、体形異常や大脳欠損等の奇形）を引き起こします。今回の症例

がアカバネウイルスの生後感染によるものと特定されると、これまでに確認されていなかった、新たな発生事例となります。なお、発生概要は下記のとおりです。

～ 熊本県での症例 ～

< 発生状況 >

- ・ 9月上旬以降、熊本県で継続的に発症（10月中旬時点で約80頭）
- ・ **発症牛の大部分が1歳以下の子牛および育成牛**
- ・ ホルスタイン種での発生が多いが、品種間の感受性の差は不明

< 臨床症状 >

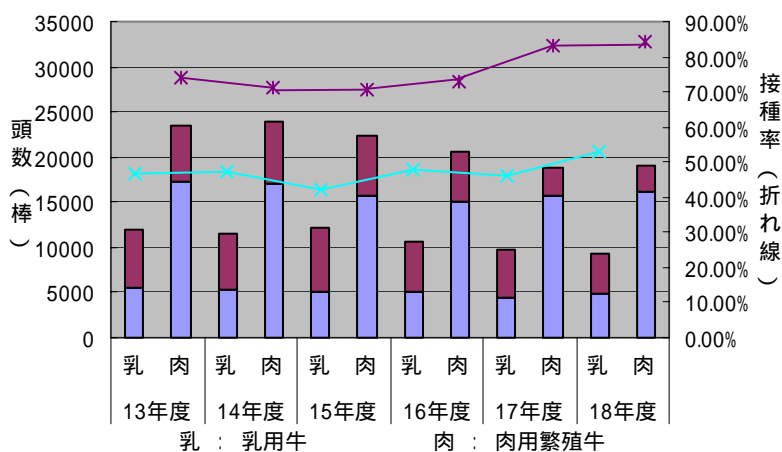
- ・ 片側性もしくは両側性の**中枢神経麻痺（後肢麻痺による虚脱、球節のナックルを示す個体が多い）**
- ・ 元気、食欲の異常は認められない個体が多い



< 検査結果 >

- ・ **アカバネウイルス遺伝子が脳から検出されている**
- ・ 一部の牛の脳からアカバネウイルスが分離されている

アカバネ病のワクチンは接種していますか？



県南地域のワクチン接種状況

岩手県では、昭和 52、55、60 年の大発生以降、同ウイルスの流行は確認されていませんが、**平成 11 年度には全国的な発生**があり、東北地域においても被害が出ています。また、管内（県南地域）では、ここ数年間のワクチン接種率が肉用繁殖牛で約 80%、乳用牛で約 45%、全体としては約 70%で推移しており、比較的高い接種率であります。万が一に備え、平成 19 年度も計画的なワクチン接種をお願いします。

<< 参考 >>

今年度の流行調査では、県内 18 戸 54 頭（管内 6 戸 18 頭）について追跡調査（6、8、9、11 月）を行いました。いずれも感染は確認されていません。

アカバネウイルスの感染を疑う症例（中枢神経異常、異常産等）が確認された場合には、速やかに獣医師か家畜保健衛生所へ連絡をお願いします。

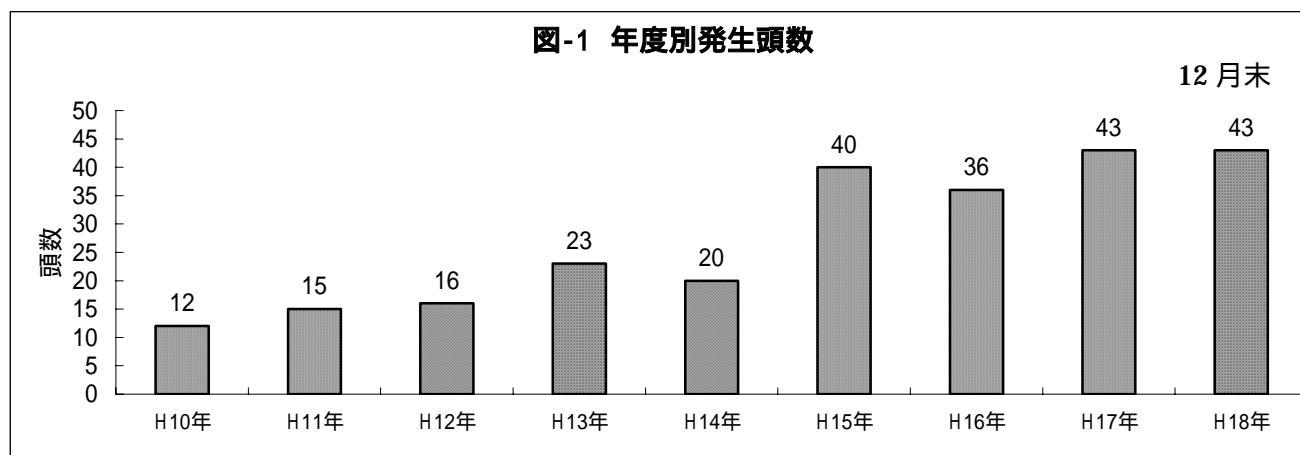
牛白血病について(病性鑑定)

1 県南家保管内牛白血病発生状況 (H10～H18年12月末日)

管内の牛白血病の発生が**増加傾向**にあります。平成14年度までは年間20頭前後でしたが、平成15年度以降は毎年40頭前後の発生があります。今年度は12月末日で43頭の発生がありました。(図-1)

平成10年から18年12月までの発生数は248頭で、品種別ではホルスタイン種115頭、黒毛和種128頭、交雑種4頭および日本短角種1頭でした。平成17年度まではホルスタイン種より黒毛和種での発生が多い傾向でしたが、今年度はホルスタイン種の発生が多くなっています。

発生時の平均年齢はホルスタイン種4.8歳、黒毛和種7.6歳でした。



2 牛白血病診断

(1) 症状

・食欲不振、急激な消瘦、体表リンパ節の腫脹および骨盤腔内の腫瘍などがあります。

(2) 検査

- ・白血球数の測定を含む血液検査
- ・寒天ゲル内沈降反応による同ウイルス抗体検査
- ・LDH や GOT などの血清酵素測定および LDH アイソザイムの検査

以上の検査結果結果を基に**総合的に診断**しています。

3 まん延防止と予防

(1) まん延防止

- ・**感染源(感染牛)の除去**および**感染経路を遮断**してください。
 - ・抗体陽性牛の分離飼養および計画的淘汰で**根源を除去**してください。
 - ・アブなどの吸血昆虫の防除に取り組むとともに、汚染した注射針および直腸検査用手袋の使い回しなどは避けてください。

(2) 予防

定期的に抗体検査を実施し、**抗体陽性牛の早期淘汰**が最善です。

編集・発行

〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字東館 41-1

岩手県南家畜保健衛生所

TEL 0197-23-3531 FAX 0197-23-3593

<http://www.pref.iwate.jp/~hp2514/>

岩手県南家畜衛生推進協議会

TEL 0197-24-5532 FAX 0197-23-6988

